

麦作情報 第2号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

今年の播種は11月17日頃から始まっています。晴天が続き大豆の収穫が順調に進み、麦の播種作業も順調に進んでいます。11月の気象は、平年に比べ、気温が0.4℃高く、降水量は33%と少なく、日照時間は120%と多くなりました。向こう3か月の天候の見通しは、平均気温は「ほぼ平年並」、降水量は「少ない」見込みとなっています。

年月	平均気温（平年差）	降水量（平年比）	日照時間（平年比）
2024年11月	+1.7℃	320%	98%
2025年11月	+0.4℃	33%	120%

1. 排水対策

排水対策は、地表排水と地下排水の組み合わせで行いますが、地表からの排水が約6割を占めるので、うね溝と周囲溝と排水口をつなげて地表水を速やかに排出させることが重要です。まだ整備をしていない場合は、早めに行ってください。



【溝さらいの様子】



【うね溝と周囲溝をつなげたほ場】



【周囲溝と排水口をつなげたほ場】

2. 晩播対策

晩播麦の収量確保のためには、晩播限界日（大麦：12/20、小麦：12/15）までの播種が必要です。遅れているほ場については、次の表を参考に播種量を増やして下さい。

○播種量

品種名	水稻後作の播種量(kg/10a)	大豆後作の播種量(kg/10a)
はるさやか	10～11	8～9
チクゴイズミ ちくしW2号	10	8

○小麦のシロトビムシ対策

小麦で過去にシロトビムシによる出芽不良が発生したほ場では、トリフミン水和剤（種子重量の0.5%種子粉衣）に加えて、シロトビムシ対策（アドマイヤー水和剤を種子重量の0.15%種子粉衣）を行ってください。

○雑草防除（10a当たり）

除草剤名	薬量	散布液量	使用時期
ムギレンジャー乳剤	300～600ml	50～100ℓ	播種後～出芽前
ボクサー	400～500ml	70～100ℓ	播種後～麦2葉期まで
リベレーターフロアブル	60～80ml	100ℓ	播種後～麦3葉期まで
《上記各薬剤に混用》 トレファノサイド	200～300ml	100ℓ	播種後出芽前～生育期

※ミチヤナギやヤエムグラが多いほ場では上記の各薬剤に「トレファノサイド乳剤」を混用し散布する

3. 11月に播種したほ場での管理作業

麦の生育状況を確認して、次の作業を行ってください。

○麦踏み

麦踏みは耐寒性の強化、分げつ促進、倒伏防止および早期茎立ち抑制のために行う作業です。本葉4枚目が出る頃（11月中旬播きでは12月下旬）から始め、晴天が続いて土壌が乾燥している日の午後、茎葉の水分付着が少ないときを選んで数回行ってください。茎葉に霜や露があるときに行うと損傷が大きく、土壌水分が高いと土壌をしめつけて麦の生育をさまたげるので、このような場合には行わないようにしましょう。

○土入れ

土入れは、雑草防除、倒伏防止、無効分げつの抑制及び湿害防止の効果があります。乾燥が続いて土壌がよく乾いたときに行います。また、麦踏み前に行い、麦踏み直後には実施しないようにしましょう。1月以降～3月上旬までに2～3回行ってください。